

150 ホオアカ

(スズメ目)

兵庫県ランク:A

Emberiza fucata

繁殖個体群:A 越冬個体群:C 通過個体群:調

環境省ランク:指定なし

種の概要

北海道、本州北・中部では夏鳥、本州南西部、四国、九州では冬鳥だが、一部は繁殖する。沖縄では冬鳥。兵庫県では、平地では主に10-翌5月に見られるが、一部の高い山地では6-8月の記録がある。夏は高原の草原やササ原に生息し、草や低木の根元で営巣する。冬は広い灌木草原や河川敷、農耕地周囲の草むらやヨシ原に生息する。繁殖期には昆虫類やクモ類を、秋から冬にはイネ科やタデ科の草の実を採食する。



写真提供:松重和太

国内分布

北海道、南千島、本州、粟島、佐渡、舩倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、男女群島、屋久島、種子島、伊豆諸島、トカラ列島、奄美大島、琉球諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、姫路市、明石市、洲本市、(芦屋市)、伊丹市、豊岡市、加古川市、三木市、高砂市、(川西市)、小野市、(三田市)、養父市、南あわじ市、淡路市、(宍粟市)、加東市、(たつの市)、猪名川町、(稲美町)、(香美町)、(新温泉町) ※県内繁殖有



主要な選定理由

影響の人為性				生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性		
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ね特殊ら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

CランクからAランクに変更。
かつては県内各地の広い範囲に生息していたが、開発の時代に田園環境から都市環境に置き変わっていく中で急減した。鉢伏山周辺の高原で繁殖記録がある他は、全て冬鳥として記録されている。

保護上の留意点

河川敷の草刈りや農耕地での除草剤などの使用抑制が重要。また、繁殖期に生息が認められる場所については、繁殖期の人の立ち入り制限などの対策も必要。